



# 全国連合退職校長会

# 会報



年頭所感

## 「一念発起」

会長 田中 昭光

令和六年

新春をお迎えのこと

お祝い申し上げます

昨年は気候変動により猛暑・豪雨が続き被害を受けましたことに心よりお見舞い申し上げます。

五月に文部科学大臣永岡桂子氏より中教審に「令和の日本型学校教育」を担う質の高い教師の確保のための環境整備に関する総合的な方策について諮問があり、中教審では、更なる学校における働き方改革、教師の処遇改善、学校の指導・運営体制の充実について審議されています。具体的には、学校現場で全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた取組を更に進化させ教育の質の向上につながることを求めています。八月中旬、文部科学省初

教職の魅力の発信、教師志望者の増加も期待できる。

・教師の職務や勤務の実態を踏まえて、新たな手当てを創設し、教師の意欲や能力の向上に資する給与制度を構築することにについて、主任等や管理職の処遇改善と併せて検討してほしい。

③学校の指導・運営体制の充実の在り方に関すること

・少人数学級とICT活用を両軸とした「個別最適な学びと協働的な学び」の実現を目指し小学校の学級編成の標準の引き下げが段階的に進められている。中学校においても少人数の学級編成が実現することを期待している。

令和の日本型学校教育の充実のために、質の高い教師の確保の取り組みが進められています。退職校長会の活動として、現職校長との交流、教育委員会との懇談などを活性化し、これまでに培ってきた知識や経験を活かし学校支援活動に積極的に取り組むことが求められます。また、地域で取り組んできた「教育の日」や地域社会での文化活動を活かし、地域の教育振興に積極的に取り組むことを期待いたします。

等中等教育局より、審議している事項について、全連退の意見を九月中旬に提出することを求められました。これまでに学校教育の整備について要望してきたことを踏まえ意見を提出しました。以下、意見の概略について報告いたします。

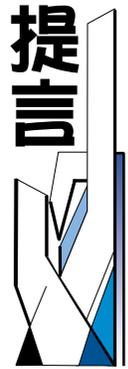
①更なる学校における働き方改革の在り方に関すること

・学校・教師が担う業務を整理し業務の負担軽減を早期に実現してほしい。

・未だに部活動は長時間勤務の最大の要因である。次期学習指導要領改訂時には、学校部活動の在り方について明らかにしてほしい。

②教師の処遇改善の在り方に関する

・教師の職務と勤務態様を踏まえて支給されている教職調整額は、教師の職務や勤務実態の変化に応じて改善すべきである。大幅な増額が実現すれば、



ストップ!

教員の採用倍率過去最低

副会長 (関東甲信越地区)

川端 重義

昨年「公立小教員の採用倍率過去最低」という新聞やテレビのニュースに驚かされました。

採用人数が増えたことが理由ということもありますが、そればかりではなく、教員を志望しなくなった学生が多くなったことが要因と思われる。

その理由は様々あると思われるますが、学校現場の課題が多く長時間労働や問題への対応に追われる厳しい現状があげられます。ブラックのイメージが浸透し、教員として働くことへの不安感が教員を目指す者になくなった原因と考えられます。

これでは、優秀な人材を確保できないばかりか、臨時的任用

職員や非常勤職員として働いてくださる方も減っていくことになりません。

代替職員がなかなか見つからず、級外の教員や教頭・副校長が担任を務めることが常態化しています。

全国連合退職校長会は、毎年活動目標に「質の高い学校教育を願い、定数や処遇改善、教育諸条件の整備、充実を図る」を掲げ、政府・関係機関への要望や意見具申も行っていきます。

私の所属する神奈川県においても「教員定数を増やすこと。県独自の予算で加配教員の増強を強く求める」としています。

教員の仕事が魅力的であるものと思える待遇や働き方改革が喫緊の課題といえます。

大学での教員免許取得の要件が緩和されたことを受けて、大卒三年生での受験を予定している自治体もあり、教員の争奪合戦が起きつつあります。

待ったなし。今すぐ人材を確保するための仕組みづくりと待

遇の改善に真剣に取り組むときと考えます。

これからも心がけたいこと

副会長 (中国地区) 塩川 寛

退職して十年、現役以上とまでは言わないが、とても刺激的な十年間であった。退職後ベルギーのブラッセル日本人学校校長として勤務した二年間が最大の出来事であった。

私が現役時代から生活信条として心がけていることは、「チャレンジ精神」「ポジティブ思考」ということである。

三十歳代にオランダ日本人学校に三年間勤務したこともあり、まさしく「チャレンジ精神」をもって決断した。海外生活の一番の壁は言葉であるが、同じ人間、「heart to heart」何とかなるという「ポジティブ思考」でクリアできたと思っている。

また、全連退で課題となっている本会の「存在意義」と「帰属意識」についてであるが、個

人的には、キーワードは「恩返し」と「学校現場支援」と考えている。

長年教育に携わり、最終的には校長や園長として勤めあげ、「天職」を全うできたことは喜び至極のことであり、その感謝の気持ちを本会の活動を通して少しでも「恩返し」しようとする姿勢が大切ではないか。「恩返し」の手段として、直接的・間接的に、培ってきた「経験や知見」を活かし、「学校現場支援」を行うかが問われていると思う。

私は、現在松江市教育委員として、教育行政に関わらせていただきながら、校区の小中学校の学習支援ボランティア、高校生を対象にした「フリースクール」等、微力ながら学校現場支援を行っている。

今後も身体が続く限り、生活信条と恩返しとの気持ちと姿勢を持ち続け、残された人生を今できることを確実に、穏やかな日々を暮らしたいものである。

## 全国校長会会長より



## 教育にかかる諸課題への対応

全日本中学校長会

会長 齊藤 正富

新たな年を迎え、謹んで初春のお慶びを申し上げます。

昨年5月、新型コロナウイルス感染症が感染症法上5類に移行し、教育活動の制限緩和が進みました。令和3年、中央教育審議会から示された「令和の日本型学校教育」の構築、完全実施された現行の学習指導要領にある「個別最適な学び」と「協働的な学び」「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた教育活動を日々実践しております。昨年6月に「骨太の方針2023」、第四期の「教育振興基本計画」が閣議決定されました。前者では、働き方改革の更なる

加速化、処遇改善、指導・運営体制の充実、育成支援を一体的に進め、来年度からの3年間で集中改革期間として、施策を計画的・段階的に進めると明記されました。また、後者では、

「2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成」「日本社会に根差したウエルビーイングの向上」のコンセプトに、5つの基本方針が示されました。加えて、多様な生徒に対応すること、少子化の進行、社会の変化への対応等の教育的課題は山積しております。

教師の業務の負担軽減を実現させ、慢性的な教員不足、教員採用試験の倍率低下に歯止めをかけることは、学び続ける教員の実現と教職の魅力の向上に不可欠と考えます。このことから、部活動の地域移行を含む働き方改革の推進に強い思いで取り組む所存です。

全国連合退職校長会の皆様には、この一年も御助言御支援をお願い申し上げます。皆様のご健康ご多幸を祈念し、御挨拶とさせていただきます。

## 年頭のご挨拶



全国高等学校校長協会

会長 石崎 規生

新年おめでとございます。

昨年五月に新型コロナウイルス感染症が五類感染症に移行されたことで通常の教育活動が戻り、様々な教育活動が本格的に再開されました。これまで中断していた行事を再開することが想像以上に大変だった学校もあったようですが、学校に活気が戻り、行事をやりに終えた生徒たちの満足げな顔を見ると、苦勞も吹き飛んだとお感じになった方も多かったですと思います。もともと、「苦勞が吹き飛んだ」といった類の話になると、やりがい搾取ではないかといった意見を聞くことが多くなり残念です。

もちろん、教員の処遇改善は喫緊の課題です。しかし、教職

調整額を増やしたり、超過勤務を認める項目を増やしたりしてはなりません。現場の校長先生方からは、現在の危機的状況を脱するには、教員定数を増やすしかないといった声も多く寄せられています。

そうしたことを実現していくためには、人材を資源とする我が国は教育にもっと投資しなければならぬという社会の合意形成を図り、「教育へのリスベクト」を取り戻し、教員志望者を増やしていかねばなりません。志をもった教職志望者も少しでも増やすためには、私たちが教職の魅力ややりがいをしっかり発信していくことが大事であると思います。

全国高等学校校長協会では、少子化の進展する地域をはじめ、多様な背景を持つ全国の高校生が一人も取り残されることのないよう力を合わせて参ります。

本年も本協会の活動に皆様のご理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。



### 全国特別支援学校長会の活動について

全国特別支援学校長会

会長 三浦 昭広

全国連合退職校長会の皆様におかれましては、特別支援学校の教育活動並びに校長会の活動につきまして、ご協力とご支援を賜り有難うございます。

本会は今年度、設立60周年を迎えました。これまで、特別支援学校の教育力向上及び充実、特別支援教育の推進を図ってきました。具体的には、年1回の総会並びに研究大会の開催と会報を発行しています。さらに、全国の理事・評議員合同による会議を年3回リモートで開催し全国規模での情報共有と情報交換等を行っています。また、特別支援学校は小・中

・高等学校に在籍する特別な教育的支援の必要な児童・生徒に対しての支援充実を図るためのセンター的機能を発揮しています。このような活動を通し特別支援教育の推進に基づく共生社会の実現を目指すことが本会の使命でもあります。

さて、昨今話題になっていす学校の働き方改革の一層の促進が特別支援学校においても課題のひとつであります。8月に、中央教育審議会から「教師を取り巻く環境整備について緊急的に取り組むべき施策（提言）」が示されました。特別支援学校においても、校長がリーダーシップを発揮し働き方改革を一層促進していく必要があると考えております。

今後も、全国連合退職校長会の皆様のご理解とご協力をいただきながら課題解決や本会の活動の充実に努めます。

貴会のみますますの御発展を祈念しております。今後とも、ご指導とご鞭撻をよろしくお願ひ申しあげます。



### 四国地区

期日 9月28日  
会場 ザ・グラントパレス  
(徳島市)

出席者 18名

4年ぶりの対面での協議会であり、活発な話し合い・情報交換の場を設定できた。短い時間であったが開催できたことに大きな収穫があった。

全連退常任理事藤崎様はあいさつの中で、文部科学省等への要望事項に触れられ、現職の教員の支援活動に共に頑張ってくださいましようと呼びかけられた。

### 協議内容

「定年延長に伴う退職校長会への入会・勧誘の時期について」  
・60歳での役職定年時が勧誘のタイミング。

・ある県では、再任用校長は今年度で終了。教諭の再任用は

あるが、校長職の再任用はないので校長としての職務は退職となるので、60歳で勧誘していく。

・「校長職」は退くが「退職」せずに「校長職」以外の正規職員として勤務し、定年年齢に達した年度末に「退職」ということになる。

このように「校長職」は退いたが「退職」はしていない方に、退職校長会として本会への入会案内を何時出すか。

・全連退として、各県の現状を取りまとめ公表するか、全国の動きにも注視したい。

### 情報交換

現職校長との交流についての情報交換をする。

・会報に現職の校長からの「特別寄稿」として掲載している。学校現場の状況がよく分かる」と好評を得ている。

・年一回現職の幼小中高の代表者4名と県の役員・事務局9名で双方の現状と課題について質疑応答の形の会議を開催している。とりわけ中学校の

部活動の指導と教員の働き方改革との関係で地域の力を借りて教師と共に生徒の指導にあたる。現場の状況が分かり参考になる。

東北地区

期日 10月12日(木)  
会場 ホテル白萩(仙台市)  
出席者 55名

【コロナに配慮しての1日開催】

第49回東北地区退職校長会議会宮城大会は、通常であれば2日間の日程のところをコロナ感染に配慮して、宿泊をせず、1日開催として、実施しました。これは、昨年の岩手大会に引き続きの日程変更です。東北各県退職校長会相互の更なる団結のためにも、じっくり語り合える懇親会を含めた2日間の開催日程に復活させたいものです。

【理事会・昼食会・大会】

○理事会の協議では、役員人事に関して、令和5・6年度の東北地区退職校長会協議会会

長は、宮城県会長で、全国連合退職校長会副会長にあたる

ことが確認されました。情報交換・情報提供として、岩手山形、福島から「デジタル化の現状と推進」という共通の話題が出されました。デジタル化については、高齢の先輩方が離れないように、現状に合わせてゆつくりと進めていくことの大切さを確認しました。令和6年度第50回大会は福島県。今年度と同じ協議議題とすることを決定しました。

○昼食会は、7〜8人で円卓を囲み、各県の活動状況等のスピーチを聞きながら、歓談することで交流を深めることができました。

○大会では、来賓の祝辞後、全国連合退職校長会会長の田中昭光氏の「充実した生き方や地域の教育・文化の向上に資する活動はどうかあればよいか」を演題に講話がありました。話題提供は、秋田県の米澤喜彦氏、青森県の西谷武夫氏、岩手県の篠田宜道氏が行

い、充実した協議会となりました。

【東北は一つ】

各県の課題も知恵を共有し、解決に当たりたいと思います。

中国地区

期日 10月19・20日  
会場 松江エクセルホテル東急

出席者数 70名

主 題 「地域や学校とつながる退職校長会をめぐって」

協議内容

○連絡協議会Ⅰ(提案発表)

主題に基づき各県の実践・発表を行った。どの県も提案性のある発表で活発な質疑応答が行われた。

①鳥取県「退職後の生きがいに関する全会員アンケートの取組とその成果」

②山口県「つながる喜びを求めて共に歩む活動の充実をめざして」

③広島県「広島県高等学校退職

校長会広島支部の取組」

④岡山県「会員の心をつなぐ交流サイト」

⑤島根県「来し方そして行く末」

○連絡協議会Ⅱ(グループ協議)

三つのテーマ(「時代に即した学校支援の在り方」「退職校長会の組織の拡充」「会員の心をつなぐ活動」)を設け、テーマごとにグループで情報交換・意見交換を行った。

情報共有を図る中で今後の取組に生かせる内容が多くあり、有意義な協議となった。



テーマごとのグループ協議



## 各地区持ち回りによる研修会

福岡県退職小学校長会

事務局長 栗原 学

福岡県退職小学校長会では、平成29年度に政令市（福岡市・北九州市）の分離独立を機に、6地区28支会で1期2年の地区輪番制による組織運営を続けています。本年度はその3期6年目を迎え、ウイルスや台風に怯むことなく諸会議や事業に取り組んでいます。今回はその中から、福利厚生研修会についてお知らせします。

福利厚生研修会は、県下6地区持ち回りによる研修会で、各地の歴史や文化についての講演や施設見学などを行っています。昨年度は、福岡地区が担当し、宗像市の海の道むなかた館において、「宗像地域の世界遺産、古代交流と信仰の継統」という

演題で、宗像市教育こども部世界遺産課の岡 崇氏による講演が行われました。講演では宗像大社を構成する沖津宮、中津宮、辺津宮に係わる関連遺産群と大陸との交流における航海安全を祈願した古代祭祀遺跡について詳しいお話をいただきました。当日の施設見学では、神宿る島「沖の島」古代祭祀遺跡を紹介するビデオや普段見ることが難しい沖の島の生の映像を見ることができました。

本年度は、北筑後地区が担当し、久留米市の久留米城址内篠山神社参集殿において、「私たちの町の歴史と文化財」久留米城下町の成り立ちや大名有馬家の歴史という演題で、久留米市市民文化財部文化財保護課の白木 守氏による講演と有馬記念館や篠山神社での自由見学が行われました。講演では、関ヶ原の戦いや大坂の陣で軍功を上げた初代有馬氏をはじめ歴代藩主の功績や久留米城周辺の町作りと現在の久留米市の成り立ちなどについて興味深い話をして

いただきました。

本会では、このような地区持ち回りの研修会を開催することにより、地域間交流と会員の絆づくりを図っているところです。

## 学校支援ボランティア活動

茨城県退職校長会

会長 水越 和夫

本会は、令和6年度に創立60周年を迎える。記念事業としては、表題のとおり33支部の会員がみんなで協力して、「地域の学校や子どもたちのための活動を」今年と来年の2年間、特に力を入れて行うことにした。

考えられる活動としては、登下校時の安全見守り活動やあいさつ運動、地教委や学校の要請で行っている学習やスポーツ支援活動、その他本の読み聞かせや学校の環境美化活動等である。なぜ、このような活動を60周年記念事業として行うのか、その理由は次のようである。

- 一 コロナの流行で活動ができず会員相互の関係が弱まったので、その絆をとり戻したい。
  - 二 退職校長会は、何をする会か実際の活動で示し、新会員の獲得に役立てたい。
  - 三 私たち会員は、地域の方々の協力で子どもたちの教育を進めることができた。その経験を生かして、これからの学校や子どもたちのためになるボランティア活動をする。
  - 四 平成31年に中央教育審議会が提言した教員の働き方改革に伴う業務への協力が可能)
  - 五 本会、総会宣言にある「教育支援活動や地域貢献のためのボランティア活動に積極的に取り組み、自らの健康維持と生きがいのある暮らしづくり」の実現を目指す。
- ボランティア活動なので、その基本は「できる人が」「できる時に」「できる事を」を合言葉に、会員みんなで取り組む。昨年の8月には、全支部の担当者が3分散会に別れて各支部の取り組みについて情報交換を行い、

今後に生かすことにした。また、各支部の実践の結果については、今年11月に報告書を作り、全会員に配付する予定である。

### 魅力ある会を目指して

石川県退職校長会

会長 近藤 繁彦

#### 一 本会の現状

本会は県全体を11支部に分け、小中高の退職校長で構成され、会員数は1610名です。

コロナ禍で4年、昨年5月の5類への移行を契機に、ようやく通常の活動に戻りつつあります。

5月の総会では本年度の活動方針を承認するとともに、4年ぶりに懇親会が開催され、旧交を温めあいました。会員相互の親睦も本会の目的の一つです。

#### 二 各支部の活動

11支部それぞれ特色ある活動を行っておりますが、総会後に懇親会を行い、親睦を図っているとところも多いと伺っております。

す。各地域における教育を担ってこられた方々です。共感する思い出話、さらに学校支援の話題も出るそうです。また独自に立派な会報を発行している支部もあります。

このような充実した支部活動を基盤に本会は支えられております。

#### 三 学校支援ボランティア活動

石川の教育振興に寄与することを目的として学校支援を行っております。昨年度コロナ禍中で実態を調査したところ、①学校の授業や行事さらに部活動での活動が多い。②地域行事や地域クラブでの活動も多い。③年間活動日数は10日以内が多い、という概要でありました。

#### 四 魅力ある会を目指して

①現職校長とさらに情報交換しながら、本会の活動に賛同いただき、新会員の加入促進に努めたい。

②各支部活動を支援し、要望意見を頂戴しながら、本会の活性化に努めたい。

③全連退を通じて教育に関する

請願、教育予算への反映に努めたい。

以上3点を存続意義と考え、本会の魅力を発信してまいります。

### 支部との連携で会員増強を

奈良県退職校園長会

会長 中室 清文

奈良県退職校園長会は県下18地区の郡市退職校園長会（支部）の会員で構成する組織である。本会の活動の基盤は支部の活動である。すべての支部の充実・発展のために活動しやすい環境をつくるのが本部の役割であると考えている。社会の急激な変化の中で組織が今直面している課題は「会員数の減少」である。支部における懸命の勧誘にもかかわらず、入会率は毎年減少の一途を辿っている。会員数の確保は本会の存続にかかわる重要な問題である。校長の定年延長の実施で来年度から益々困難を極めることが予想され

るなか、各支部の理事の参加で「新入会員を増やすために、どのように勧誘していくか」をテーマにグループ協議をした。各支部における勧誘方法を報告し合う中でより有効な手段を追求した。また、支部会長会において危機的な状況を報告し、入会率60%以上を目指して来年度の勧誘活動の強化を依頼した。

会員増強のためには勧誘強化だけでなく、より魅力ある事業の展開が必要である。本部事業の教育講演会を支部代表による実行委員会を組織して、県内各地を巡って開催している。支部との連携を深めると共に、会員が事業を身近に感じ、参加しやすい状況を作り出したいと考えている。今年度は磯城郡・桜井市・宇陀市が中心となって『邪馬台国論争の中の纏向』の演題で磯城郡田原本町において開催した。

県の退職校園長会を今後も持続可能な組織にするためには、まずは県下の郡市退職校園長会が必要な会員数を確保し、安定

して事業を展開してくれることが必要不可欠である。

「奈良県は一つ」の合言葉のもと、更なる支部との連携を深めていきたいと考えている。

## ウイズコロナでの活動

広島県高等学校退職校長会

会長 砂田 勝彦

本会は、公立の高校、特別支援学校を退職した校長等からなる組織です。平成18年に広島県退職校長会から分離・独立をしました。会員数は約560人、県下5支部から成り立っています。県役員は、各支部の会長、副会長で構成しています。

本会の主な活動は、総会・研修会、支部活動等です。総会担当は支部の持ち回りで、7月に開催しています。総会資料に、「会員だより」欄を設け、近況報告を掲載し、会員同士の繋がり、支え合いに努めています。今年度は、20%の会員よりお便りを頂きました。

今年度の総会は、現職校長に協力頂き、一堂に会して開催することができました。4年ぶりに懇親会を実施し、旧交を温める場面が多く見られました。現職校長ともじっくり懇談でき、意義深いものとなりました。

支部では、支部総会・現職校長との懇談会の開催、支部だより・会誌の発行等、地域の実情に応じて活動しています。

広島支部の懇談会では、内科病院の院長先生をお招きし、「ウイズコロナ時代へコロナに学び、これからの人生を自分らしく生きるために」というテーマで講演頂きました。感染予防、健康維持の生活、健康寿命を伸ばすためには体と脳を活性化させること等について貴重なご示唆を頂きました。

課題として、参加者・応募者が固定化する傾向にあること。若い世代の参加が少ないことなどで、対策が必要です。

コロナウイルス感染症が2類から5類に移行したとはいえ、コロナ対策に努めながら、各種

活動を実施し、退職校長会の活動の活性化を図って行きたいと考えています。

## 黄鳥倶楽部の一年

代表世話人 染田 祥孝

本県（愛媛県）の黄鳥倶楽部は、県高等学校長協会会員であったもので組織する教育研究団体で、昭和42年に発足し、現在29名の会員を擁している。黄鳥倶楽部は「おうちようくらぶ」と読み、退職してもまだまだくちばしが黄色い雛のようなものであるとの自戒の意味を込め、名付けられたと言われている。

今年度はコロナ禍を経て、4年ぶりに通常の活動ができていたので、その活動状況等を紹介することとした。

まず、総会であるが、原則として5月と10月の第4日曜日に開催している。

今年度の春の会は、5月28日（日）に、4年ぶりに「にぎたつ会館」で開催された。総会では、代表世話人の挨拶、来賓祝

辞及び紹介、新入会員紹介と続く。本会には、例年、勇退された校長先生方が全員入会している。続いて白寿、米寿、喜寿を迎えられた方々へのお祝いの贈呈、会務報告、会計報告、世話人の改選協議が行われる。また、会員の近況報告をまとめたメッセージ集を配付し、所属意識を高めるとともに、連帯感を深めている。総会終了に引き続き、懇親会を開催し、和やかな雰囲気の中、交流を深めている。秋の会は、10月22日（日）に開催され、総会後の懇親会では、会員同士が旧交を温め、大いに盛り上がった。

また、会員有志による趣味の集いである「白秋会」の活動があり、毎年晩秋の頃に、白秋展を開催している。作品は、絵画、版画、書道、俳画、写真、陶芸、手芸と多岐にわたり、様々な分野に意欲的にチャレンジしている。

このように、地道ではあるが、会員相互の研修や親睦を図り、着実な歩みを続けている。

第2回理事会報告

日時 令和5年10月4日(水)

会場 きゅりあん(品川区立総合区民会館)6階大会議室

出席者 全国連合退職校長会会長・副会長・常任理事・理事・監事等59名

◆会議の概要

司会 事業委員長 藤崎武利

1 開会のことば

副会長 塩川 寛

2 会長挨拶(要旨)

会長 田中昭光

天候不順の中お集まりいただきありがとうございます。

前会長入子先生退任のあとを引き継ぎ会長を務めております。

高齢ではありますが、重責を果たさなければならぬと努力してまいりますので、皆様のご支援、ご協力をよろしくお願

い

たします。

監事に関して、皆様にご了解

していただきたいことがあります。

神奈川県の大久保先生が総会後

の7月にお亡くなりになり、後

任として渋谷美智子先生を推薦

いただきました。この席で了解

いただきたい。

総会で宣言した活動が滞らな

いよう計画を推進してきていま

す。本日までの活動に使った資

料を提供しましたので、地区に

持ち帰って活かしていただきました

と思います。

3 第2回理事会の運営について

午前中は本部の6月以降の活

動について報告し、午後は各県

の情報交換をグループ別協議で

行う。

4 報告事項

(1) 全国5校種校園長会との懇

談会(会報229号P10～P12)

(2) 3省大臣への「要望書」提

出(会報229号P2～P4)

(3) 文部科学省初中局長との教

育懇談会(資料1)

(4) 中央教育審議会への意見提

出(資料2)

「令和の日本型学校教育」を

担う質の高い教師を確保する

ための環境整備に関する総合

的な方策について

(諮問)に関する意見を提出

した。

(5) 教員処遇改善・教育投資を

求める緊急集会(資料3)

(6) 各部・委員会の活動報告

午前の部終了

5 グループ別協議・情報交換

交換

○ 協議題「会員減少の中で、

どのように組織の充実・活

性を図っていくか」

・定年延長下の入会勧誘の在

り方

・組織の充実・活性化への取

組・課題

(1) 5グループの編成

(2) 趣旨説明

(3) グループ別協議・情報交換

(4) 各グループからの報告

Aグループ

(茨城、東京、北海道、青森、

石川、滋賀、鳥取、香川、福岡、

宮崎、坂爪監事、本部萩原)

①役職定年制に伴う入会勧誘に

ついて



どこの県も会則に「校長職にあった者を会員とする」とあるので、役職定年制にあっても60歳時点で勧誘する。短期再任用校長は除外。勧誘は、60歳が勝負時。

## ② 脱退者の現状と工夫

100人単位での脱退者が出ているところもある。理由はどこの県からも出たが、会員ではない、会員の高齢化等がある。また、加入者減少の支部を見ていると、活動が低調である。魅力ある活動が展開できなにかかっている。工夫は、60歳で加入しなくとも5年間勧誘を続ける。宮崎県は、校長全てに準会員になってもらい会費も納めてもらっている。青森、鳥取では準会員会費500円。88歳5県、93歳、99歳と会費免除の年齢を定めている県もある。また、会の活

性化には県との繋がりが重要であり、地教委と連携しながら活動を進めている県もある。勧誘は対面での説得が一番。スローガンの看板を持参する県もある。

## ③ 組織の活性化

● デジタル化を進める。評議員会や総会をオンライン化している。全連退ともメールでやりとりするとよい。

### ● 教育への寄与活動

支部活動支援金制度設定、地域の学校支援ボランティア活動、教育への寄与活動のための研究プロジェクトチームを立ち上げる等各県が活動を推進している。

### Bグループ

(栃木、神奈川、岩手、宮城、福井、京都、愛媛、大分、鹿児島、本部橋本)

### ○ 入会促進

人との繋がり、顔の繋がり

が大切である。学校が困っていることに対応するために、ひきこもり対応の支援など校長の意向を受けて活動している。また、現職を準会員とする県もあり、愛媛県では全員が入会。

### ○ 組織の活性化

地域によって違いがあり、活動が十分でないところへどう支援していくかが課題。具体的な支援活動の例・岩手県ウクライナ支援・京都府平和教育の出前授業・福井県学校教育講演会、作文の審査など。神奈川県は連合体なので、県としては講演会が年一回の行事である。昨日盛会に開催された。

### Cグループ

(群馬、山梨、秋田、岐阜、大分、奈良、広島、高知、長崎、沖縄、渋谷監事、本部村山)

### ○ 定年延長下の入会勧誘

大半の県が役職定年時、特別職で校長を長くやった者はその職を退いた時に勧誘している。完全退職時65歳とすると、さらに長い者が出てくる可能性があり、うやむやになりそうなので、役職定年時とする。勧誘は、年齢が離れて顔が分からなくなっている、若い人に行ってもらっている。その他、教育懇談会、講演会の機会を活用している県もある。勧誘の前提として人間関係を築いておくことが有効である。日ごろから学校訪問をしたり、校長会との繋がりを大切にするのが重要である。

また、退職校長会の存在意義を高めるために、県教委との繋がりを大切にして行く必要があるだろう。始めは話を提供してもらうからでよい。

もう一つ、組織の活性化の

ためにアンケートを実施して、会員の思いやニーズを把握し、楽しみながら参加でき、一人一人がやりがいや繋がりを感じる活動を多く設定していくようにしているという報告もあった。

Dグループ

(埼玉、長野、北海道、山形、千葉、静岡、山口、徳島、熊本、本部三上)

○役職定年

北海道の様子を聞いた。全国では、入会率が20〜100%で、大きな差がある。ある県は8年間で会員数が5000人から2500人に減少している。ある県は本年度300人が退会している。

○組織の活性化

HPを出している県がある。紙からHPに変わってよい面が出てきた。(3県)現職校長とどのように関わっていく

かについては、懇談会の開催、普段から繋がりを作っておくことよって、入会につなげる。副会長会時の情報で、ある県は入会資格を校長を退職した者、加えて校長を辞した者としたところがあった。間口が少し広がる。

Eグループ

(新潟、千葉、福島、埼玉、愛知、三重、和歌山、島根、福岡、佐賀、高田監事、本部藤崎)

○役職定年

グループ協議でいろいろな県の様子に分かり、新鮮な意見が聞けた。役職定年の60歳で入会勧誘をする。何を目的として入会をお願いするのか。教員になった時に、校長が子供たちにとって接するかを教えてください。ことに似ている。そして、県と支部が一体となれるかどうか大切である。どのように

情報が共有できるかということ。デジタル化やAIはよいが、落とし穴がある。高齢者が扱えないことから60歳代に負担がいき、その結果若手が減ることにもなりかねない。現職支援は、子供や保護者の相談活動の支援などがある。退職校長会が何をしているのかが見えるようにするためにどうしたらよいか。デジタル化もいいが紙の良さを活用し、どのように発信するかが大切である。会費について、現職校長が60歳になった時に7年分7000円を手数料3000円計1万円を納めてもらうという県もあった。

(5) 会長挨拶

いま小・中学校を見学すると、学級会活動などで熟議をしている。多様な意見が交わされ結論は出ないが、他者の意見を聞き、

個々が考え直すことに役立っている。子供が社会変化のなかで、それぞれの力を発揮し生きていく、国を支えていくには他者の意見も聞き入れることが大切であり、教育活動に取り入れられている。本日は狭い空間で聞き取りにくかったと思うが、まさに熟議であった。地元に戻られ、問題が生じた時に、本日の様々な意見を参考にしてもらえたらありがたい。

全連退は足元を見つめて今やるべきことに対して真剣に取り組んでいくが、いたらぬ点は指摘していただきたい。検討して努力していく。最後に、入会の勧誘が厳しくなっている。退職校長会の活動内容を説明するなどして説得してほしい。

6 閉会のことば

副会長 石川和幸

副会長 石川和幸

各地の会報紙より



大分県退職校長会

「会報」第179号

『じいちゃん先生』

中津市 久恒 和孝

退職後に夢がありました。もう一度、小学校で担任をしたいということ。実現しました。管理職十二年と臨時講師の仕事の違い、中学校と小学校の仕事のリズムの違いなど、とまどいことが多くありました。しかし、子どもたちと接しながら生活できるのは至福の時間です。

朝、子どもたちを教室で迎え、一人ひとりと会話を弾ませ家庭学習のチェックをします。話とともに、「先生、来る途中、四つ葉のクローバーを見つけたよ。」と両手いっぱいプレゼントがありました。みんなて本のしおりにしました。「先生、

この葉の花を絵に描いて。」と大切に持ってくる子どももいました。ホットな出来事を毎日の学級通信に綴っています。ただ、指導案を書くこと、学級事務などの作業は、ついつい後回しになりがちです。同僚に助けられないながら、乗り越えているところ。すでに担任すること五年目となっています。「先生は教員が天職ですね。」先日、同僚の先生からのほめ言葉も

話すと、「みんなに感謝しないとね。」の言葉。子どもや同僚には、校長を経験したことなど全く関係ありません。ICT教育も進んでいる中で、教えることより教える方も多くあります。長い教員生活で、二世世代教える機会が増えてきています。中には、教えた子どもの孫を受け持った時は驚きました。

体力的な限界を感じるまでは

子どもたちと教室で関わりたいと思います。じいちゃん先生は、もうちょつと頑張るぞ。



奈良県退職校長会会報

「萬葉」第185号

「ストリートスマート」

との出会い

大和郡山形 大西 利文

初めて出会った言葉、それは「ストリートスマート」という言葉です。私は平日頃から、言葉との出会いは人との出会いと同じことだと、とらえています。なので、どんな人なのか知りたくなりました。

この言葉は成蹊学園学園長の江川雅子さんが、ある講演会の中で提示された言葉で、その意味は「ブックスマート、つまり、本や学校から学べる知識の対義語で、社会でいろんな人と接して培われる対人能力、判断力、柔軟性などです」と説明されて

います。確かにいろんな人と接して培われるものもありますが、どのような人と出会うかということも、人生にとって、重要な位置を占めるのではと、この言葉と出会って思いを馳せました。これまでの来し方を顧みると、中学校二年生の時の担任の先生との出会いがなければ教師にはなっていなかったと思います。加えて教育実習で母校の中学校へ行った際の生徒たちとの出会いも大きい。扱った教材が「走れメロス」だったのですが、実習も残すところあとわずかとなった時に、生徒たちから「メロス先生」と呼ばれるようになっていました。おそらく「メロス」を連呼していたのだと思うものの、うれしくもありました。一ヶ月ばかりの実習ではありましたが、より一層教師になりたいと思ったことをよく覚えています。皆さんはどんな人と出会って来られましたか。

秋田県退職校長会



「会報」第100号

### 酒と切り絵と

#### おちよこと女

秋田市 大山 重幸

古希を迎え、現在楽しんでい  
る事を河島英五の「酒と泪と男  
と女」をもじって紹介します。

【酒】県産酒が大好きで、コロ  
ナ禍前は酒蔵をよく訪問してい  
ました。浅舞酒造の故森谷康市  
杜氏から、酒造りの楽しさや可  
能性を伺ってからはますます日  
本酒が好きになり、友人と県産  
酒を応援する「テロワールの  
会」を立ち上げました。(ただ  
うまい酒を飲みたいだけで  
が)市の退職校長会でも日本酒  
研修会を開催し、最高のお酒を  
味わってます。

【切り絵】今年も卒園記念に切  
り絵のしおりを制作中です。認  
定こども園に勤務して八年。毎

年、卒園する年長児に切り絵の  
しおりをプレゼントしてきまし  
た。もう七百枚以上作ったでし  
ようか。嬉しそうな園児の顔を  
見ると、こちらも幸せな気持ち  
になります。切り絵を趣味とし  
て四十余年。主に、子どもたち  
の活動や豊かな表情を題材にし  
て切り絵を制作してきました。

今後も、一つでも作品を増やし  
ていけるよう努力していきたい  
と思います。

【おちよこ】退職して陶芸教室  
に通い、主に酒器(おちよこや  
銚子)に挑戦しています。師匠  
の故平野庫太郎先生はよく、  
「粘土遊びを楽しんで」と話さ  
れていましたので、その教えを  
守り十年経っても粘土遊びの腕  
前です。週一回の陶芸教室です  
が、どう焼き上がってくるのか、  
毎回楽しみでなりません。

犬のうめ吉に跳びかかってはお  
もちゃを奪い、家中大騒ぎ。  
「人の物は俺の物」と言うドラ  
えもんに出てくるジャイアンみ  
たいな女の子です。でも、二匹  
のワンコを見ているだけで楽し  
くなり、毎日癒されています。

鳥取県退職校長会会報



「積雲」第103号

### ちいさなつながり

米子 神坂 安喜代

まずは思い出の断片から。  
米子駅近くの荒神さんの境内  
で紙芝居のおじさんを待った。  
小さな路地も空き地もみんな遊  
び場だった。雨の日は大きな黒  
い傘を抱えて駅まで父を迎えに  
いく。屋根付きの歩道には多く  
の人が行き交った。思えばこの  
ころ、近所のおじさんやおばさ  
んはみんな知り合いのようだっ  
た。

今は姿を変え、かつて走り抜け  
た路地も空き地もわからなくな  
った。古く危険になったアーケ  
ードの大屋根は、はずされた。  
陽の光が落ちる道を辿るとどこ  
か寂しい。

変化のきっかけの一つともい  
える区画整理によって移った今  
の自宅は、小学校や高校の通学  
路に面している。楽しげに笑う  
声や語り合う声が家の中にい  
ても聞こえてくる。孫を抱いて外  
にできれば声をかけてくれる子も  
多い。うつむいて帰る小学生も  
こちらが声をかけると頬が緩む。  
歩きスマホの高校生もにっこり  
笑う。顔見知りになった子の成  
長を感じるのも嬉しい。

時代を超え、コロナ禍を越え  
て街や人の姿は変化した。でも、  
子どもたちの本質はきつと変わ  
らない。みんな人が好きだ。私  
は、通学路に住む一人の大人と  
して、これからも小さなつなが  
りを見つけてすごしたい。

埼玉県退職校長会



「会報」第179号

### 退職後を振り返って

熊谷 小柴 清

令和5年5月20日に「くまがや環境賞」を「認定NPO法人熊谷市ほたるを保護する会」が受賞した。代表理事柴田忠雄の代理で私が授賞式に出席し、大

島英司副市長から授与された。このことが「埼玉よみうり」という新聞に大きな写真入りで載り、熊谷の担当の目に留まった。

20年前、私は岩槻高校長を最後に定年退職した。地域の方々の応援があつて、行田を振り出しに熊谷、川本、北本、児玉、鴻巣、鷲宮、岩槻と38年間恙なく終えた。学校と柔道の部活動に夢中で過ごした。

退職後は家業の神主と地域活動に取り組んでいる。まず、國

學院大學の「夏期神職講習」を受けた。一から学び、資格を得し奉仕している。その傍ら地域の活動を積極的に取り組んでいる。自治会活動ではゴミ集積所の問題に取り組み、会員の協力で気持ち良くゴミ出しができるようになった。

私の住んでいる江南町は自生するゲンジボタルの飛び交う町づくりに力を入れてきた。2007年に熊谷市に合併後、市民に紹介する為「こうなんホタル祭り」を始めた。年々お客様は増えたが、ホタルはどんどん減り4回目の祭りは開催が危ぶまれた。そこで、江南自治会連合

会が音頭を取り熊谷青年会議所も加わり、地域ぐるみの活動を始めた。しかし、ホタルの発生数が少し戻ってくると捕獲され困っていた。

2017年にホタル条例の改正でホタルや餌のカワニナ等貝

類を捕獲・採取した場合の罰則を盛り込み、保護を強化した。熊谷市ほたるを保護する会では自生地の清掃や生息数調査、里山の整備などを続けている。また、ホタルの案内所を開設している。昨年からは江南北小で3

年生から6年生の総合的な学習の時間にホタル保護活動の授業を始めた。児童は授業に新鮮さを感じていたようだ。今年6月2日、読売新聞埼玉版(県北・県西)にホタル保護活動が掲載され、テレビの報道もあり、今年は2万人以上の人がゲンジボタルを観賞に訪れている。

千葉県退職校長会



「会報」第98号

### 『フラダンス』と共に

東葛中部 坂本 みどり

わたしは、現在七十一歳。現役の「フラダンサー」であり、

「インストラクター」でもあり、ます。六十五歳の時、ハワイの由緒ある大会での優勝経験を持つ、才能豊かな若き師に教えを乞うチャンスを頂きました。現在、この先生が主宰するフラダンス教室には、三歳から八十歳までの百五十名を超える生徒がいま

す。そして、楽しくも厳しい練習に明け暮れること五年。やがて教える側である「インストラクター」への道が開けることになりました。嬉しさはあったものの、七十歳を超えてのインストラクターは、体力的なこともあり、前例も少なく、果たしてできるものなのかと悩みました。

しかし、フラの魅力を少しでも多くの人に伝えたいという思いが強く、困難な道をあえて選ぶことを決めました。フラは奥

が深く、手や体全体の動きで、様々な心の在り方を表現します。

ハワイという地の歴史の深さ、住む人たちの自然への畏敬、その思いを自分に重ねて踊ることには何にも代え難い喜びがあります。

「フラダンスショー」では、たくさんのお客様の笑顔と拍手から、心の底から沸きあがるような勇気をいただいています。

また、教えている子どもたちからは、そのひたむきに頑張る姿に、自分の年齢を忘れさせてくれる元気をもらっています。

これからも練習に励み、自分人間としての成長が、少しでも踊りに滲み出るように努力を重ねていくつもりです。

学校教育という分野以外でも意欲的に生きることができていく充実感だけでなく、「先生」とまた呼ばれることへの日々にも感謝しながら、これからも一日一日を大切に過ごしたいと思っています。

大村はま先生の「人を育てる

ということとは心を育てることである」という言葉を、再度しっかりと胸に刻みながら、自分の道を歩み続けたいと思います。



埼玉県退職校長会

「会報」第179号

### はじめた時が出会いの時

本庄 津久井 光寿

例年より桜の満開が早い3月、久々に旅行に出かけました。

「日本列島最後の秘境」と言われる山の中の一軒宿、富山の大牧温泉です。船でしか行けない宿、数多くのサスペンスドラマの舞台です。

実はかなり前から毎年数回、妻と2泊3日の行程で「朝ドラ」や「大河ドラマ」などの舞台を旅していました。親しい友人からは「はやり物好き」と言われ、親族からは「今度はどこに行くの」とからかわれます。「ちゅらさん」の年は沖縄県の

小浜島です。まっすぐに延々と続くシュガーロードに立って感動しました。「てっぱん」の年は広島県の尾道です。アーケード街の撮影場所を散策しました。

「西郷どん」の年は鹿児島市です。大地のパワーがみなぎる火山「桜島」に感激しました。

テレビ番組を見ながら、自然や歴史、文化や食など、本物に触れなくなりました。「はじめた時が出会いの時」と考え、今に至っています。

コロナが5類に移行して行動制限がなくなった今、何処へ行くこうか思案中です。

新潟県公立学校退職校長会

「会報」第65号

### アイシテルニイガタ

亀田・横越支部 熊谷 重男

光陰矢の如し。退職からはや10年。趣味の庭と畑のほか、古文書学習などで、日々知る喜び

がある。もつとも、一つ覚える一つ忘れ、進歩は？忘却も矢の如し。

この5年、アルビレックス新潟の試合に自転車で駆けつける。昨年10月8日、J1昇格を達成。歓喜を共にし、応援歌「アイシテルニイガタ」に涙が出そうになる。

鉄道旅を兼ね、甲府など近隣のアウエイにも足を運ぶ。今年度開幕の仙台戦は、豪雪で米坂線が止まり、引き返す不運に。

山形ではユニフォームをもらった。ホーム専用席でオレンジはダメだったのだ。周囲が相手サポーターの場合、応援は正反対の反応になり、面白い。相手サポーターとも親しくなる。

さて、アルビレックス新潟は、今年J1で生き残れるかな。



五反田だより

『初春の令月にして  
氣淑く 風和らぎ  
梅は鏡前の粉を抜き  
蘭は珮後の香を薫らす』

(万葉集「梅花の歌三十二首」  
序文より)

「令」の麗しき善さの響きと  
「和」の貴い精神をもって

「令和」の新時代を迎えた。  
その途端に新型コロナウイルス  
が全世界を震撼させたのである。

あれから四年余り

コロナ禍も落ち着いてきた小  
春日和の穏やかな一日、「たき  
び」の歌碑(日野市)を訪ねた。

『かきねの垣根の まがりかど  
たきびだ焚火だ 落葉たき  
あたらうか あたらうよ  
北風びいふう 吹いている

巽 聖歌』

この歌は昭和十六年、「焚火  
は敵機の目標になる」と軍から  
叱られ放送中止になったそうだ  
が戦後、NHK「うたのおぼさ

ん」で取上げられ、一年生の教  
科書にも掲載されて、たちまち  
多くの人の愛唱歌となった。令  
和の世には焚火を見る機会さえ  
無くなってきたが、故郷の友と  
過ごした良き思い出である。

五反田の事務局では今、コロ  
ナとインフルエンザの感染防止  
に強力な空気清浄器を設置して  
会議を進めている。

「令和の日本型学校教育」は  
進展しているのだろうか・・・。

- GIGAスクール構想は？
- 学校における働き方改革は？
- 部活動の地域移行は？
- 国会議員への陳情活動は・・・

問もなく師走  
新年のカレンダーの手帳を買  
い求め、元旦に「初詣・大國魂  
神社」と書き入れて、久し振りに  
祖母が教えてくれた初春の歌  
を歌ってみた・・・。

♪梅の小枝で うぐいすが  
春が来たよと 歌います  
ホーホー ホケキヨ  
ホー ホケキヨ

(HS)

◇10月

- 4 第2回理事会
- 6 部長会
- 11 教育振興部会
- 16 教育課題委員会
- 23 事業委員会
- 26 生涯福祉部会
- 30 部長会

◇11月

- 10 財務状況健全化検討会議
- 13 第4回常任理事会
- 14 事業委員会
- 13 教育関係23団体全国集会  
への参加
- 20 教育課題委員会
- 22 本部研修・葛飾区立清和  
小学校研究発表会への参  
加
- 24 部長会
- 27 広報部会

◇12月

- 4 広報部会
- 5 部長会
- 7 生涯福祉部会
- 11 広報部会・事業委員会
- 13 教育振興部会・教育課題  
委員会
- 15 国会議員への陳情

編集後記

○新しい年を迎えました。コロ  
ナ禍は収まりつつあるようで  
すが、インフルエンザが流行  
しています。十分ご自愛くだ  
さい。

○都道府県だよりからは、各県  
の退職校長会が新会員確保等  
のため努力されている様子が  
伝わってきます。

○今回も、各地の会報紙から多  
くの文を掲載いたしました。  
ぜひご一読ください。

○今年も広報部員一同は、より  
よい会報の編集に努力を続け  
てまいります。皆様のご協力  
を、よろしくお願いいたしま  
す。

全連退会報(230号)

発行 令和六年一月一日  
発行所 東京都品川区東五反田  
五二一ー一三三〇八  
全国連合退職校長会  
電話 〇三三四四(二)八七六八  
FAX 〇三三四四(一)八七六八  
Email: info@zenentai.org  
振替口座 〇〇一九〇九四四七二〇  
○責任者 田中昭光  
印刷 株式会社 信行社  
電話(〇三)三八三三三六二二